

むきぼんだ花だより 6月

2015. 6. 6

「古代より水湯くどころ蠻舞ふ」

もと

和名の由来は、葉の形が「笹」に似ることからきている。球根は、古来、食用にされてきた。ユリの仲間の中では開花時期が早い。茎先に2、3輪の淡い紅色の花をつける。稀に白花もある。花は大輪で、長さが10センチから15センチくらいある漏斗状で、横向きに花をつける。花には独特の香りがある。

ササユリ

前年枝の葉腋から長さ4~6cmの総状花序をだし、白い色に花を下向きに多数つける。ときに花冠の先が淡紅色を帯びるものもある。花冠は長さ8~10mmの壺型で、浅く5裂し、外面には細かい毛が散生する。

ネジキ

枝先に葉より高く散房花序を出し、小さな黄白色の花を密につける。花弁は4個、長さ4~5mmの狭長楕円形。雄しべは4個、花柱は1個。萼筒には白い伏毛が密生する。花序の枝は花時は緑色だが、果実が熟す頃には赤くなる。

クマノミズキ

寄生生物の寄生により異常な成長をする植物

クロキの虫えい (虫こぶ)

タバパチ・タマバエ・アブラムシなどの幼虫が寄生してできた部分がこぶ状になるため「虫こぶ」と言う。寄生した虫の出す刺激に反応し、植物の一部が異常成長したものである。若葉にできた虫えいはエイリアンのように不気味な形をしている。



虫こぶ



虫こぶ

花が重複

エゴノキの虫えい (虫こぶ)

寄生された植物には迷惑だろうが、若葉にできた虫こぶが、「綺麗な形の花模様」と花柄が異常成長し「花柄一つから重複開花」したものがあり、その面白い形について見とれてしまった。虫こぶを作る虫は、アミノ酸や植物ホルモンを出して、植物の細胞を異常発育させると言われている。虫こぶには、「△△△ハチジミフシ」など、それぞれ名前がある。

初夏に美味しい実をつける木々



ナガバモミジイチゴ (長葉紅葉莓)

バラ科・キイチゴ属
たくさん粒がまとまって黄色に熟す。名前は葉がモミジのように裂けることに由来する。食べ方：生食 ジャム

ウグイスカグラ (鶯神楽)

スイカズラ科・スイカズラ属
葉のつけねから赤い実が垂れ下がる。名前はウグイスがこの実をついばむ姿が神楽を踊っているように見えることに由来する。食べ方：生食

ヤマグワ (山桑)

クワ科・クワ属・雌雄同株と異株あり
葉の形は一定ではなく切れ込みの入らないもの、2~5に分裂するものとさまざま。花は尾状に垂れる。食べ方：ジャム 果実酒 生食

初夏 独特の匂いを放つ栗の花



クリ (栗)

ブナ科/クリ属/落葉高木
 花穂には無数の雄花とその付け根に1~2個の雌花がつく。花穂は葉の付け根に上向きにつき、尾のようにたれ下がる。
 ブナ科は風媒花であるがクリは虫媒花のため、開花の時期に強烈な匂いを放ち、虫を呼び寄せる。また、縄文時代の遺跡から出土したことで、古代から食糧にされていたことがわかる。



いわがらみ (岩絡み)



木に這いのぼる



岩に絡みつく

アジサイ科/イワガラミ属
 落葉つる性木本
 白色の装飾花が縁どる。装飾花はガク片1枚が花びらのようなもの。茎はしっかりしていて、附着根を出して上にと這う。



美しい装飾花

投稿写真

2015. 6. 6



●自然道楽

日本には巡る四季があります
 日本人は古来、自然に親しみ自然とともに生きてきました
 四季の移ろいは人を飽きさせないし、美しく暮らす知恵をいろいろ生んできた
 また 学んできました

今回は初夏(梅雨)の季節を感じながら
 妻木新山の植物観察をしました
 風や鳥の鳴き声や光を感じ
 自然を楽しむすてきな笑顔の道楽人に
 妻木晩田で出会いました



写真と文 さとう三彦

私の自慢

私はむきばんだ史跡公園で植生解説をしています。先日、ある御家族を案内した際に、葉のつき方について詳しく説明させていただきました。小学1年生の子どもさんには少し難しい話でしたが、引率されていたご両親が興味をもたれ、草木の不思議に感動されていました。歩く会で学んだことが役立った一日でした。

(K・Nさん)

互生

一枚ずつ生じる

対生

一対ずつ生じる

輪生

葉が3枚以上つく

むきばんだ
花カルタ参考

★むきばんだを歩く会★

- 指導: 鷲見寛幸先生(鳥取県自然観察指導員)
- 毎月第1土曜日午前9時30分~正午
- 入会金 2000円 毎回資料代 300円 いつでも、どなたでも入会可能です
- 問い合わせ: むきばんだ応援団「むきばんだをあるく会」